



こんな便秘は要注意！

残暑が厳しいかと思ったら、急に肌寒くなって秋がやってきました。皆さまにとっての「小さい秋」は見つかりましたでしょうか。

ところで、本人は気にも留めないぐらいの「小さな便秘」症状はありませんか。それは、実は大きな病気の前触れかもしれません。

そもそも「便秘」とは何なのでしょう。慢性便秘症診療ガイドラインでは、「本来体外に排出すべき糞便を十分量かつ快適に排出できない状態」と定めています。快適というのは便の性状や残便感、排便困難感、排便の頻度など、さまざまな要素から判断します。



便秘を治したい場合、必要に応じて治療薬を処方します。治療薬も、便を柔らかくするタイプや刺激して便を出すことを促す薬など、最近では多種多様になってきています。患者さまご自身の感じ方によって個別に治療目標を設定し、それに合わせた処方考えますのでお気軽にご相談ください。

また、便秘の原因は、加齢や筋力低下により腸の運動能や排便機能の低下をきたしているタイプだけでなく、腸自体の病気や他の臓器の病気が隠れている時があります。特に大腸癌や潰瘍性大腸炎は発見が遅れると重症になることもあります。



国保京都丹波町病院 水曜日の内科一般外来
和知診療所 月、木曜日の内科一般外来 担当
澤井 剛 医師



つぎの症状がある場合は、ただの便秘と放置せず、積極的に大腸内視鏡検査を受けることが早期発見につながります。

①発熱・体重減少がある



②排便習慣の急激な変化があった

③直腸からの出血がある

④大腸癌の家族歴がある



国保京丹波町病院では大腸内視鏡検査を行っておりますのでご相談をお待ちしています。